

災害・戦災の歴史 ——その教訓に学ぶ—— **全8回**

日本は「災害列島」といわれるほど、これまで多くの災害・戦災に見舞われてきました。

それとともに、災害・戦災と立ち向かってきた先人たちは、私たちに多くの教訓を残しています。

東日本大震災からの復興が求められている今日、災害・戦災の日本史に学びながら、私たちの進むべき道について考えてみたいと思います。

コーディネーター

大阪大学 大学院文学研究科 教授 **飯塚 一幸**
立命館大学 文学部 教授 **桂島 宣弘**

第1回 5月20日(月)

立命館大学 文学部 教授 **本郷 真紹**

古代の天災

第2回 5月27日(月)

大阪大学 大学院 文学研究科 准教授 **市 大樹**

日本古代の災異と復興

第3回 6月3日(月)

立命館大学 文学部 准教授 **三枝 暁子**

室町期京都の都市社会 —災害・飢饉をめぐって—

第4回 6月10日(月)

大阪大学 大学院 文学研究科 教授 **川合 康**

源平合戦と源頼朝の復興政策

第5回 6月17日(月)

前 立命館大学 歴史都市防災研究センター 教授 **北原 糸子**

災害対応の歴史 —近世と近代

第6回 6月24日(月)

大阪大学 大学院 文学研究科 教授 **村田 路人**

江戸時代上方地域の治水システム

第7回 7月1日(月)

立命館大学 文学部 教授 **山崎 有恒**

近代京都の防災思想・技術・システムとその変容

第8回 7月8日(月)

大阪大学 大学院 文学研究科 教授 **飯塚 一幸**

大阪における防空と都市計画

会場 立命館大阪梅田キャンパス (大阪富国生命ビル5階)

時間 14:00~15:40 (90分の講演と10分の質疑応答)

受講料 1回 1,500円 (7回以上一括申込の場合 10,000円)

定員 各回100名【先着順】定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

申込受付開始日時 3月18日(月) 9:00~

※E-mail・FAX・郵送、いずれかの方法でお申し込みください。※お電話でのお申し込みはできません。※受付開始前のお申し込みは無効です。

お問合せ・お申込先 立命館大阪オフィス

(開室時間:月~金 9:00~17:30 / 休祝日除く) ※土日閉室
〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル14階
※2013年3月~ 同ビル5階から移転いたしました。

TEL:06-6360-4895 FAX:06-6360-4894

E-mail:osaka-of@st.ritsumei.ac.jp



アクセス 地下鉄谷町線 東梅田駅 徒歩1分
地下鉄御堂筋線 梅田駅 徒歩3分
阪神 梅田駅 徒歩3分
JR 大阪駅 徒歩5分
阪急 梅田駅 徒歩5分

第1回 5月20日(月) 立命館大学 文学部 教授 本郷 真紹
古代の天災

奈良・平安時代に生じた天災は、人々の生活に甚大な被害をもたらした飢饉を誘発したばかりでなく、為政者をも震撼させ、さまざまな手立てが講じられた。天災のもたらす思想面での影響を検証し、併せてその対策として展開された政策の意義について検討を試みる。

第2回 5月27日(月) 大阪大学大学院 文学研究科 准教授 市 大樹
日本古代の災異と復興

数々の災異に見舞われた古代の日本。そのとき、国家はいかなる対応をし、どのようにして復興を遂げていったのか。この問題について、天平9年(737)の疫病大流行、貞観11年(869)の貞観大地震を素材にして具体的に考えてみたい。

第3回 6月3日(月) 立命館大学 文学部 准教授 三枝 暁子
室町期京都の都市社会—災害・飢饉をめぐって—

金閣・銀閣に象徴される室町文化の栄えた時代、京都は洪水や大風・地震をはじめとする様々な災害にみまわれるばかりでなく、飢饉にあえぐ人々の押し寄せる場となった。こうした災害や飢饉によって浮かび上がる、都市社会の実像に迫りたい。

第4回 6月10日(月) 大阪大学大学院 文学研究科 教授 川合 康
源平合戦と源頼朝の復興政策

本講演は、治承・寿永内乱期の戦争(源平合戦)をとりあげ、当時の戦争の実態を、文献史料や軍記物、考古学の発掘成果などから解明するとともに、戦争を勝ち抜いた源頼朝の鎌倉幕府権力が、どのような戦後処理・復興政策を展開していったのかを考察する。

第5回 6月17日(月) 前立命館大学 歴史都市防災研究センター 教授 北原 糸子
災害対応の歴史—近世と近代

突発的に発生する自然災害に対して、近世の社会的対応と近代社会の対応では、どのような変化がみられたのだろうか。あるいは、どのような点が変わらずに社会的伝統として息づいていたのだろうか。幕末の災害多発期と都市化した近代社会の具体的事例を元に考える。

第6回 6月24日(月) 大阪大学大学院 文学研究科 教授 村田 路人
江戸時代上方地域の治水システム

江戸時代、幕府は上方地域に対して高度な治水システムを構築していた。とりわけ、淀川・大和川などの大河川の堤防維持システムには見るべきものがあった。今回は、大河川の堤防維持システムの構築過程とその変化に焦点をあて、上方地域の治水システムを紹介したい。

第7回 7月1日(月) 立命館大学 文学部 教授 山崎 有恒
近代京都の防災思想・技術・システムとその変容

自然災害との「共生」を選んできた日本人は、近代科学文明の導入の中で、その考え方をどのように変化させたのか。その変化は防災システムや防災技術にどのような影響を与えたのか。『京都日出新聞』の紙面から変化を浮かび上がらせるとともに、今後の防災の在り方について考えたい。

第8回 7月8日(月) 大阪大学大学院 文学研究科 教授 飯塚 一幸
大阪における防空と都市計画

空襲に対処するための防空は、広く知られている学童疎開だけでなく、防空緑地の整備や建物疎開などへとつながっていった。市民生活にそれほどの影響を及ぼした防空を通じて、戦争が大阪を形作っていく様子を論じてみたい。

申込受付開始日時 3月18日(月) 9:00~ ※受付開始前のお申込みは無効です。

- お申込み方法**
- ①「申込書」に必要事項を記載の上、E-mail・FAX・郵送、いずれかの方法で右記お申込先までお送りください。
※お電話でのお申込みはできません。
 - ②受講申込受付後、「受付確認書」「払込取扱票」をご送付いたしますので、受講料を納付(郵便払込)願います。
※振込手数料は申込者のご負担をお願いいたします。
※いったん納付いただいた受講料は返金いたしかねますのでご了承ください。
※現金での納入受付はできません。

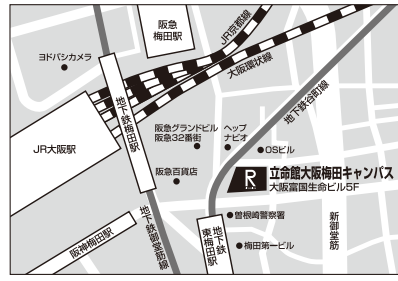
定員 各回100名【先着順】
定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

受講料 1回 1,500円(7回以上一括申込の場合、10,000円)

会場 立命館大阪梅田キャンパス(大阪富国生命ビル5階)

時間 14:00~15:40(90分の講演と10分の質疑応答)

立命館大阪オフィス
(開室時間:月~金 9:00~17:30/休祝日除く) ※土日閉室
〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル14階
TEL:06-6360-4895
FAX:06-6360-4894
E-mail:osaka-of@st.ritsumei.ac.jp



アクセス
地下鉄谷町線 東梅田駅 徒歩1分
地下鉄御堂筋線 梅田駅 徒歩3分
阪神 梅田駅 徒歩3分
JR 大阪駅 徒歩5分
阪急 梅田駅 徒歩5分

申込書 ▼希望する受講日該当欄に○印をつけてください。

第1回	5月20日(月) 古代の天災	第5回	6月17日(月) 災害対応の歴史—近世と近代
第2回	5月27日(月) 日本古代の災異と復興	第6回	6月24日(月) 江戸時代上方地域の治水システム
第3回	6月3日(月) 室町期京都の都市社会—災害・飢饉をめぐって—	第7回	7月1日(月) 近代京都の防災思想・技術・システムとその変容
第4回	6月10日(月) 源平合戦と源頼朝の復興政策	第8回	7月8日(月) 大阪における防空と都市計画

全8回を受講する

フリガナ ご氏名	性別 男 ・ 女	年齢 歳
ご住所 〒	この講座をお知りになったきっかけ <input type="checkbox"/> 立命館大阪オフィスからの郵送物 <input type="checkbox"/> 立命館大学HP <input type="checkbox"/> 懐徳堂記念会からの郵送物 <input type="checkbox"/> 大阪大学21世紀懐徳堂HP <input type="checkbox"/> 父母教育後援会だより <input type="checkbox"/> 校友会報「りつめい」 <input type="checkbox"/> 大阪府・市の公共施設 <input type="checkbox"/> 知人からの紹介 <input type="checkbox"/> 新聞広告(新聞名: _____) <input type="checkbox"/> その他(_____)	
TEL FAX		
E-mail		